

研究種目：若手研究 (B)
研究期間：2007～2010
課題番号：19730210
研究課題名 (和文) 労働市場の流動化に伴う持続的キャリア形成：キャリアステージと移行・経路・人的資本
研究課題名 (英文) Sustainable Career Formation by Diversification of Employment Patterns in Japan
研究代表者 浦坂 純子
同志社大学・社会学部・准教授
研究者番号：70289338

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：経済学・経済政策
キーワード：労働

1. 研究計画の概要

本研究は、通常学卒後 40 年以上に及ぶ就業可能期間において、様々な移動を繰り返しながら労働者がキャリアを積み重ねていく過程を、五つのキャリアステージ (学校・企業・NPO・創業・インターバル) を拠点に実証分析することを目的としている。

2. 研究の進捗状況

平成 19 年度は、採用において優位性を持たない比較的小規模な民間企業 5000 社を対象に、紹介予定派遣、第 2 新卒者の採用意向及び活用に関する設問を中心とする調査票調査を実施した。さらに、調査対象に転職経験者を追加した結果、620 社及び 929 名からの回答を得た。

平成 20 年度は、上記調査データの分析を行い、採用担当者の考えの中でも、転職者の間でも、転職経路間の棲み分けが相当程度進んでいることが分かった。そのことが、転職後に生じる所得をはじめとする様々な格差を考察する上で重要な要因となっており、適材適所を目指す上でどのような歪みや偏りをもたらしているのか、今後さらに詳細な分析を要することを認識した。その一方で、NPO に関しては、特に有償ボランティアの労働者性に関して労働法の分野から関心が寄せられ、現場の労働実態を紹介する機会に恵まれた。また、これまでの研究成果を、若者向けに分かりやすく紹介する新書を出版する機会にも恵まれた。

平成 21 年度は、二つの調査票調査を実施した。「中国における日本語専攻大学生の就

職活動に関する調査」は、日本の大学生と競合しつつある中国の日本語が堪能な大学生を対象とし、その就職活動の実態を把握しながら、どのような就業意識とキャリア実現力が形成されているかを明らかにしている。得られた 286 名のデータから、日本とは大きく異なる新規大卒者の就職市場や就職支援体制のあり方が、中国の大学生の就業意識に少なからぬ影響を与えており、人材活用のグローバル化を目指す上で示唆に富む結果が示された。また「キャリア教育の現状に関する調査」は、大学進学率が 50%を超える昨今、若年雇用問題が最も表出しやすいのが、職業高校等で訓練されずに就職せざるを得ない普通科高校の出身者であるという問題意識から、全国の普通科高校 3984 校全てを対象とし、キャリア教育の実態と課題の把握を目指している。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している

三つの大規模な調査票調査を実施できたことが大きい。分析を経て、想定していた見だけでなく、新たな論点に気づかされることも多かったため、今後の研究の可能性が広がった。特に、平成 21 年度に着手した「キャリア教育」については、平成 23 年度から大学でも職業指導 (キャリアガイダンス) が義務化されるなどの動きもあり、社会的な関心も高まっている。喫緊の課題として、最終年度の研究に全力を尽くしたい。

4. 今後の研究の推進方策

平成 22 年度が最終年度となるため、3 月末時点で約 850 校から回答を得ている「キャリア教育の現状に関する調査」の速やかな集計および分析を手がけ、成果報告を様々な形で実施したい。また、4 年間の蓄積を総括し、次年度以降の研究計画策定につなげることを考えている。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

- 1) 浦坂純子・西村和雄・平田純一・八木匡、「数学教育と人的資本蓄積—日本における実証分析—」、『クオリティ・エデュケーション』(国際教育学会機関誌)、査読無、第 3 巻、2010 年、掲載確定
- 2) 宋艶平・浦坂純子、「「中国における日本語専攻大学生の就職活動に関する調査」報告」、『評論・社会科学』(同志社大学社会科学学会)、査読無、90 号、pp. 149-169、<http://elib.doshisha.ac.jp/japanese/index.html>
- 3) 浦坂純子、「NPO における有給職員とボランティア—NPO 活動への関わり方の実態—」、『日本労働法学会誌』(日本労働法学会)、査読無、第 112 号、pp. 100-110
- 4) 浦坂純子・西村和雄・平田純一・八木匡、「ゆとり教育政策による格差拡大と企業による雇用可能性」、『クオリティ・エデュケーション』(国際教育学会機関誌)、査読無、第 1 巻 (創刊号)、pp. 19-27
- 5) 西村和雄・浦坂純子・平田純一・八木匡、「企業による学力評価から見た人材確保と教育政策—日本の中小企業調査から見えるもの—」、『大学論集』(広島大学高等教育研究開発センター)、査読無、第 39 集、pp. 145-162

[学会発表] (計 5 件)

- 1) 浦坂純子、「誰が雇用を流動化させるのか—Job-Hopper の実証分析—」、経済統計学会関西支部例会、2009 年 12 月 19 日、同志社大学
- 2) 浦坂純子、「キャリア教育と言わない大学生のキャリア形成—正課教育とキャリア教育の架橋—」、大学生研究フォーラム

2009、2009 年 7 月 26 日、京都大学

- 3) 浦坂純子、「NPO における有給職員とボランティア—NPO 活動への関わり方の実態—」、日本労働法学会第 115 回大会、2008 年 5 月 18 日、熊本大学
- 4) 浦坂純子、「NPO で「働く」ことを考える—精神的充足から有能な人材が定着する環境整備を—」、平成 19 年度科学研究費補助金・学術創成研究費「ポスト構造改革における市場と社会の新たな秩序形成—自由と共同性の法システム—」平成 19 年度第 3 回社会の秩序形成部会研究会、2008 年 1 月 30 日、京都大学
- 5) 浦坂純子、「労働市場におけるミスマッチ」、第 2 回国際教育学会総会、2007 年 8 月 12 日、京都大学

[図書] (計 1 件)

- 1) 浦坂純子、筑摩書房、『なぜ「大学は出ておきなさい」と言われるのか—キャリアにつながる学び方—』、2009 年、170 頁